

「ボーナスと暮らし向きに関するアンケート調査」(2018年夏)の結果

千葉経済センター

(公益財団法人 ひまわりベンチャー育成基金)

当センターでは、「2018年夏のボーナス予想」や「暮らし向き」について、千葉銀行40か店の来店客(1,000人)を対象にアンケート調査を実施し、その結果は次のとおりとなった。

調査結果概要

1. ボーナス予想額：54万2000円(前年夏比1万1000円増加、同2.0%増加)

今夏のボーナス予想額は54万2000円と、前年夏の受取額(回答者の実績)を1万1000円上回った。予想伸び率は「+2.0%」で、夏のボーナスとしては、2013年以降、6年連続の「増加」予想となっている。

2. 暮らし向きアンケート調査について

暮らし向き(生活全般)については、半年前より「良くなった」(9.6%)が「悪くなった」(8.4%)を1.2%ポイント上回った。今後半年間の見通しについては、「悪くなりそう」(14.0%)が「良くなりそう」(10.5%)を3.5%ポイント上回る結果となり、過去のアンケート結果と同様、先行きについては、今回も慎重な見方がうかがわれた。

- ▽ ボーナスの増減予想では、「増えそう」が18.5%(昨夏15.9%)と昨夏比2.6%ポイント増加の一方、「減りそう」が9.7%(同11.3%)と同1.6%ポイント減少した。
全体としては、「増えそう」が「減りそう」を8.8%ポイント上回る結果となったが、「変わらない」が7割超と多数を占める状況に変化はみられない。
- ▽ ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「教育・教養費」、3位「生活費の補填」で、以下「ローン等の返済」、「旅行・レジャー」、「買い物」、「交際費」の順となった。
- ▽ 貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」80.5%、「ゆうちょ(貯金)」6.3%、「社内預金」5.7%、「投信・株式」4.8%の順になっている。
- ▽ 貯蓄の目的(複数回答)は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー資金」、4位「住宅関連資金」、5位「不時の備え」、以下「車の維持管理」、「結婚資金」、「耐久消費財」の順となっている。
- ▽ 購入希望主要品目(複数回答)では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「家具・インテリア」が上位を占めた。既婚・独身を問わず男性は「紳士服」、女性は「婦人服」をそれぞれ1位に挙げている。

調査結果

1. ボーナスの増減予想

ボーナスの増減予想では、「増えそう」が18.5%（昨夏15.9%）と昨夏比2.6%ポイント増加の一方、「減りそう」が9.7%（同11.3%）と同1.6%ポイント減少した。

全体としては、「増えそう」が「減りそう」を8.8%ポイント上回る結果となったが、「変わらない」が7割超と多数を占める状況に変化はみられない。

増減予想を年齢階層別にみると、30歳未満、30歳代、40歳代で、「増えそう」が「減りそう」を上回った。なかでも「増えそう」とした割合は、30歳未満で30.6%と高くなっている。他方、50歳以上では引き続き「減りそう」の方が「増えそう」より多くなったが、「増えそう」の割合が15.0%まで増加した結果、増減予想差は大幅に縮小するかたちとなった（図表-1）。

また、「変わらない」の割合は全階層で最も多く、全体としてはここ数年70%以上で推移するなか、今回アンケートでは71.7%となった。

夏・冬のボーナス増減予想割合の推移は、（図表-2）のとおりである。

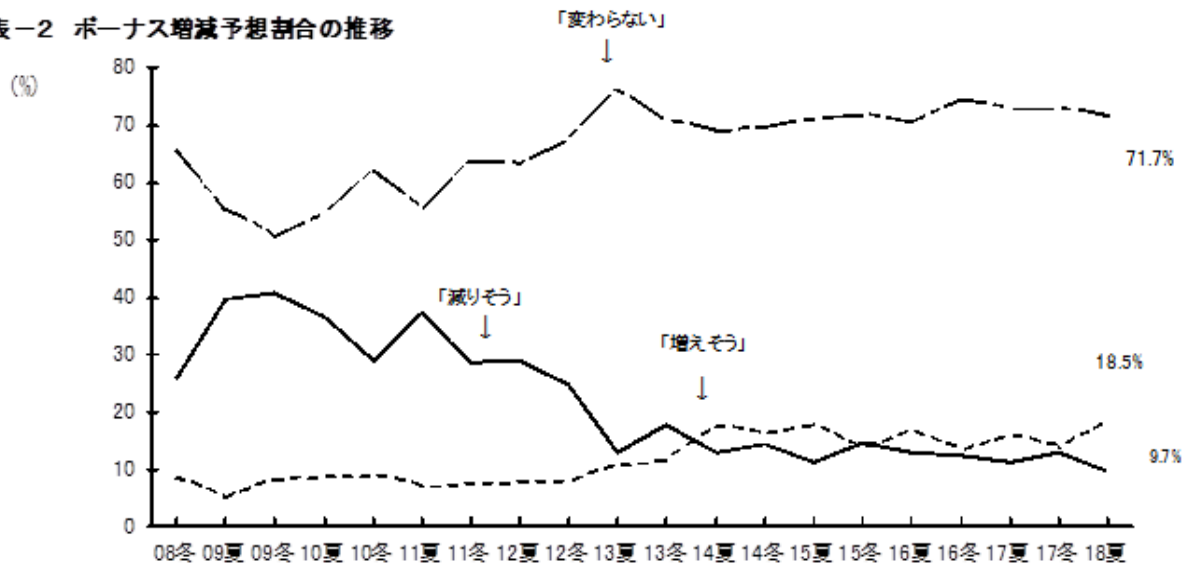
図表-1 ボーナスの増減予想（対前年比）

（構成比、単位：%）

| | | 「増えそう」 | 「減りそう」 | 「変わらない」 |
|-------|-----|--------|--------|---------|
| 全 体 | 16夏 | 16.5 | 13.1 | 70.4 |
| | 17夏 | 15.9 | 11.3 | 72.8 |
| | 18夏 | 18.5 | 9.7 | 71.7 |
| 30歳未満 | 16夏 | 31.9 | 6.2 | 61.9 |
| | 17夏 | 30.3 | 9.0 | 60.7 |
| | 18夏 | 30.6 | 9.0 | 60.4 |
| 30歳代 | 16夏 | 16.7 | 12.1 | 71.2 |
| | 17夏 | 18.4 | 9.2 | 72.4 |
| | 18夏 | 21.5 | 6.0 | 72.5 |
| 40歳代 | 16夏 | 14.2 | 11.6 | 74.2 |
| | 17夏 | 13.3 | 8.9 | 77.8 |
| | 18夏 | 11.9 | 8.2 | 79.9 |
| 50歳以上 | 16夏 | 9.4 | 20.5 | 70.2 |
| | 17夏 | 5.8 | 17.9 | 76.3 |
| | 18夏 | 15.0 | 15.6 | 69.5 |

注) 不明、無回答を除いた構成比

図表-2 ボーナス増減予想割合の推移



2. ボーナスの予想額

今夏のボーナス予想額は54万2000円と、前年夏の受取額（回答者の実績）を1万1000円上回った。

予想伸び率は「+2.0%」で、夏のボーナスとしては、2013年以降、6年連続の「増加」予想となっている。

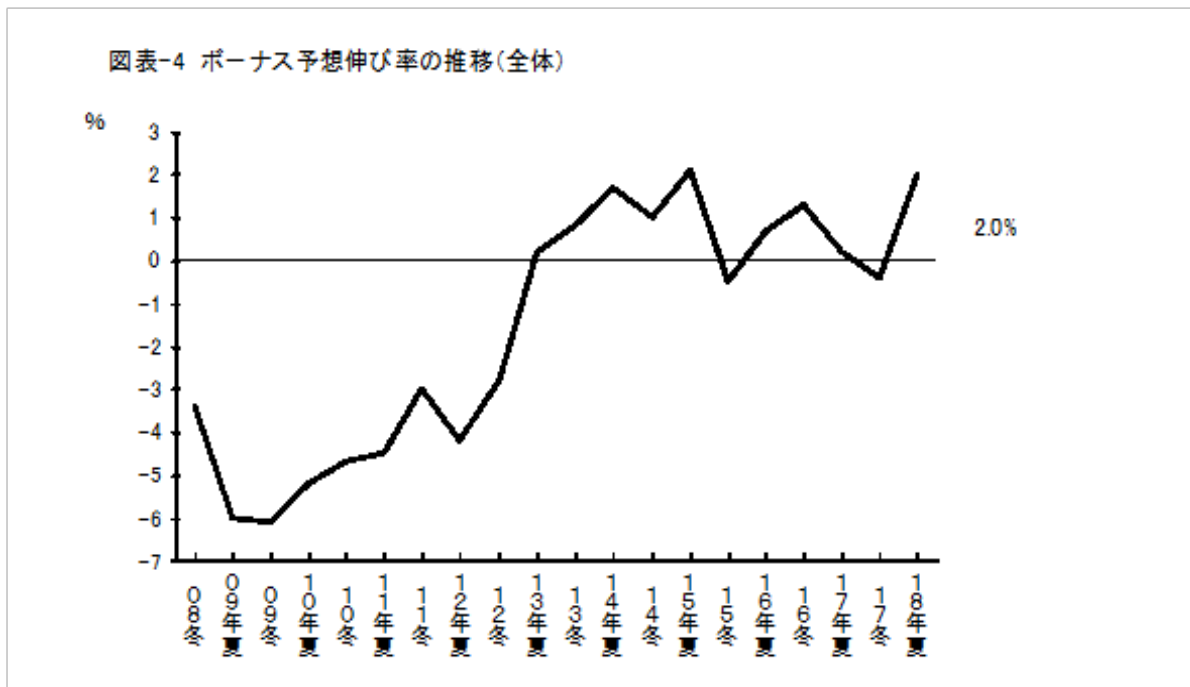
年齢階層別では、全階層で増加となるなか、特に「30歳未満」の予想伸び率が8.7%と高くなっている。

また、勤務地別で見ると、予想額は都内勤務者の方が県内勤務者より29万5000円高く、予想伸び率についても、都内勤務者の方が2.8%と、県内勤務者の1.9%を上回っている（図表-3）。

夏・冬のボーナス予想伸び率の推移は、（図表-4）のとおりである。

図表-3 ボーナス予想額・予想伸び率

| | | 予想額 (万円) | 予想伸び率 (対前年夏、%) |
|----------|-----|-------------|-------------------|
| 全 体 | | 54.2 | 2.0 |
| 30歳未満 | | 39.3 | 8.7 |
| 30歳代 | | 45.7 | 2.3 |
| 40歳代 | | 57.1 | 0.1 |
| 50歳以上 | | 69.9 | 0.9 |
| 勤務 地別 | 県 内 | 49.3 | 1.9 |
| | 東 京 | 78.8 | 2.8 |



3. ボーナスの配分予定

ボーナスの配分は、1位「貯蓄」、2位「教育・教養費」、3位「生活費の補填」。

ボーナスの配分予定は、1位「貯蓄」(40.7%)、2位「教育・教養費」(10.2%)、3位「生活費の補填」(9.6%)で、以下「ローン等の返済」(9.3%)、「旅行・レジャー」(8.0%)、「買い物」(7.2%)、「交際費」(0.9%)の順となっている。

「貯蓄」は、経済情勢にかかわらず常にトップにあり、既婚・独身、男性・女性を問わず、堅実性を重視している様子が感じられる。また、「教育・教養費」への配分予定も従来のアンケート調査と同様、上位となった。

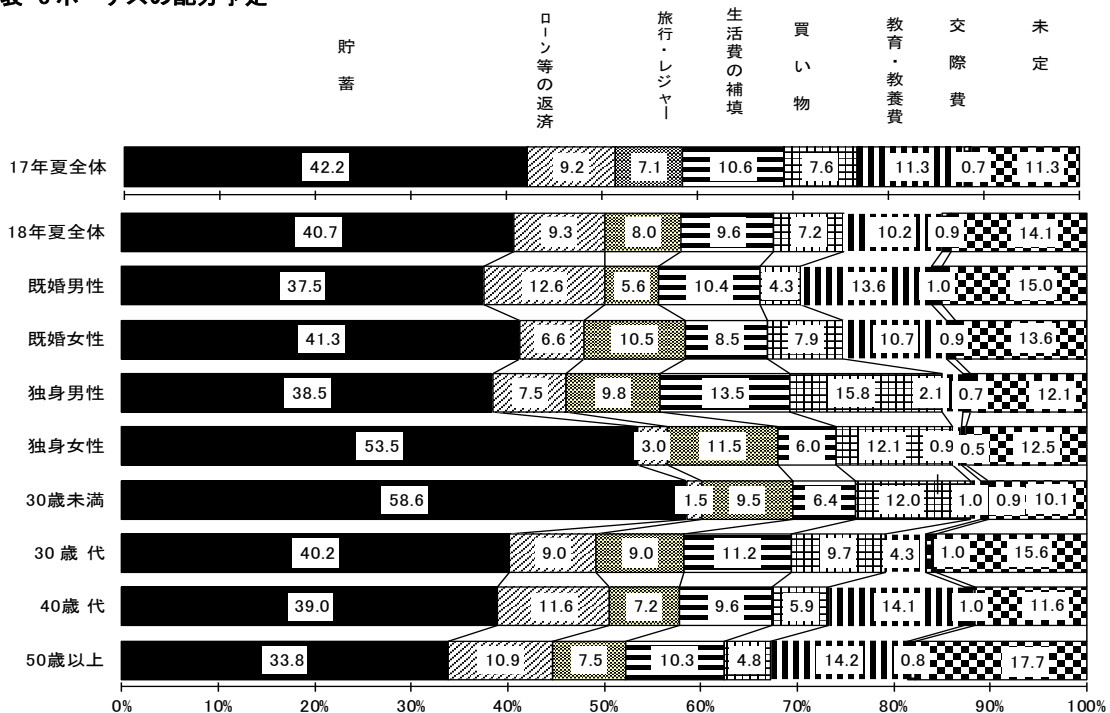
「貯蓄」については、男性より女性での割合が高く、独身女性で53.5%、既婚女性で41.3%となった。また、年齢階層別では、若い世代ほど「貯蓄」の割合が高く、特に30歳未満では58.6%と高くなっている。

「貯蓄」以外の項目では、独身者は既婚者に比べて「買い物」のウェイトが高く、既婚者は「教育・教養費」のウェイトが高い。また、男性は、既婚・独身とも「生活費の補填」のウェイトが女性に比べ高く、既婚者は「ローン等の返済」も高くなっている。

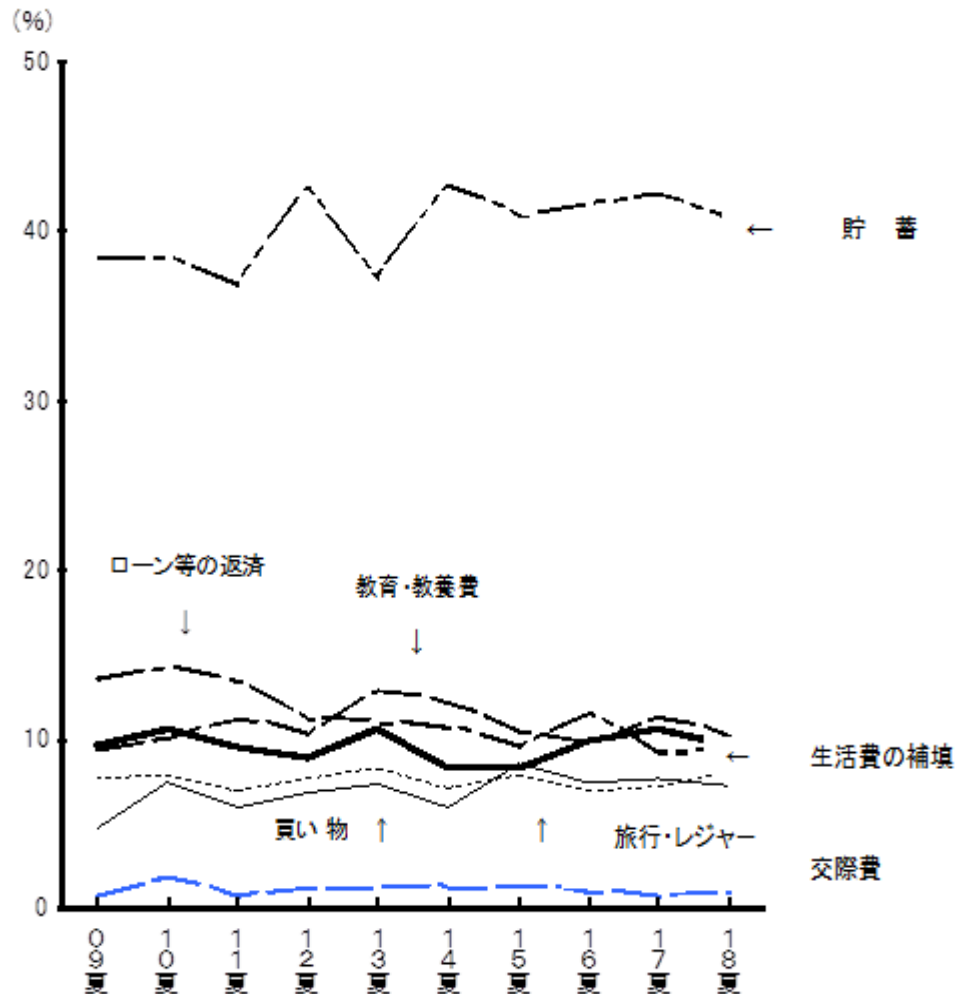
また、年齢階層別の特徴として、30歳未満は「買い物」、30歳代は「生活費の補填」や「買い物」、40歳代、50歳以上は「教育・教養費」、「ローン等の返済」や「生活費の補填」への配分割合が高くなっている(図表-5)。

ボーナスの配分予定の推移(夏季のみの時系列推移)は、(図表-6)のとおりである。

図表-5 ボーナスの配分予定



図表-6 ボーナスの配分予定の推移



4. 貯蓄の内訳

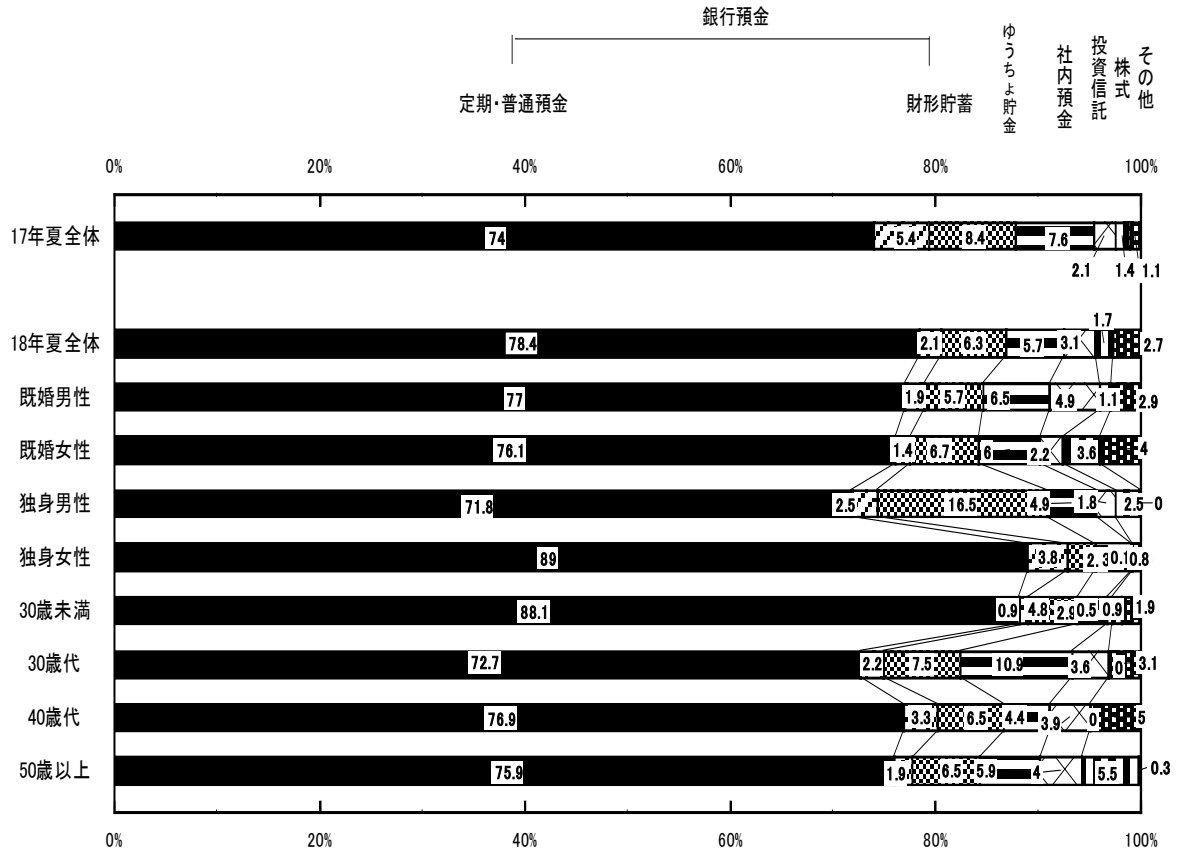
貯蓄の内訳は、「銀行預金（財形貯蓄を含む）」80.5%、「ゆうちょ（貯金）」6.3%、「社内預金」5.7%、「投信・株式」4.8%の順。

貯蓄の内訳をみると、「銀行預金（財形貯蓄を含む）」80.5%、「ゆうちょ（貯金）」6.3%、「社内預金」5.7%の順となっており、低金利の中でも安全性の重視が感じられる。この3項目で全体の92.5%（昨夏95.4%）を占めている（図表-7）。

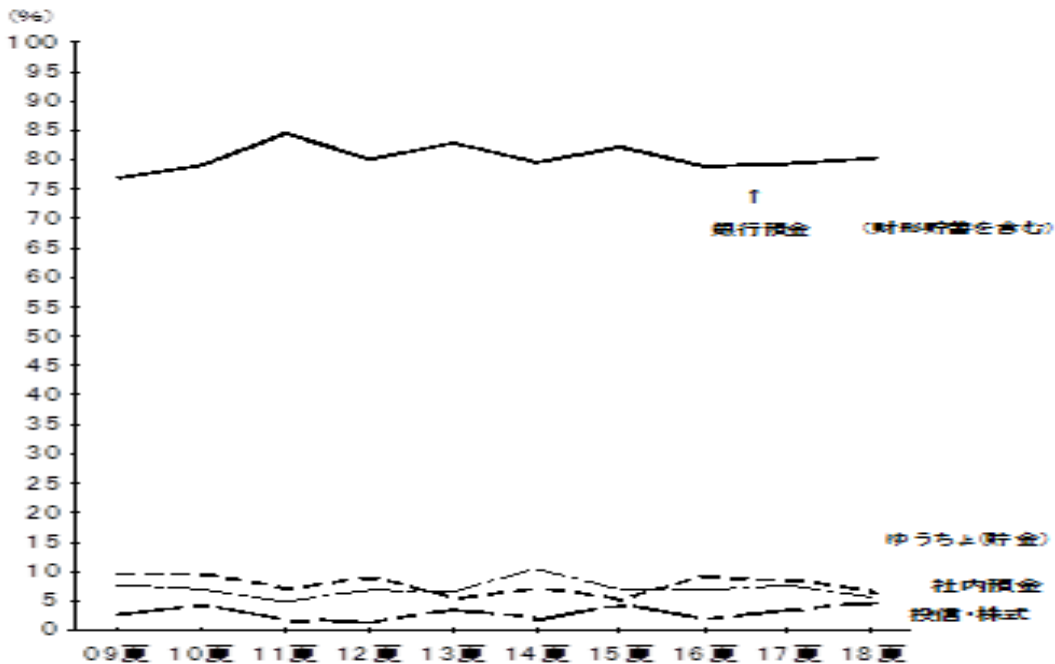
既婚・独身別、男性・女性別でも、いずれも「銀行預金（財形貯蓄を含む）」の割合が大半を占めている。特に独身女性（92.8%）、30歳未満（89.0%）で高いのが目立つ。「銀行預金」以外では、独身男性の「ゆうちょ（貯金）」（16.5%）、30歳代の「社内預金」（10.9%）が、やや高めの割合を示す結果となっている。

貯蓄の内訳推移（夏季のみの時系列推移）は、（図表-8）のとおりである。

図表-7 貯蓄の内訳



図表-8 貯蓄の内訳推移



5. 貯蓄の目的

貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー資金」。

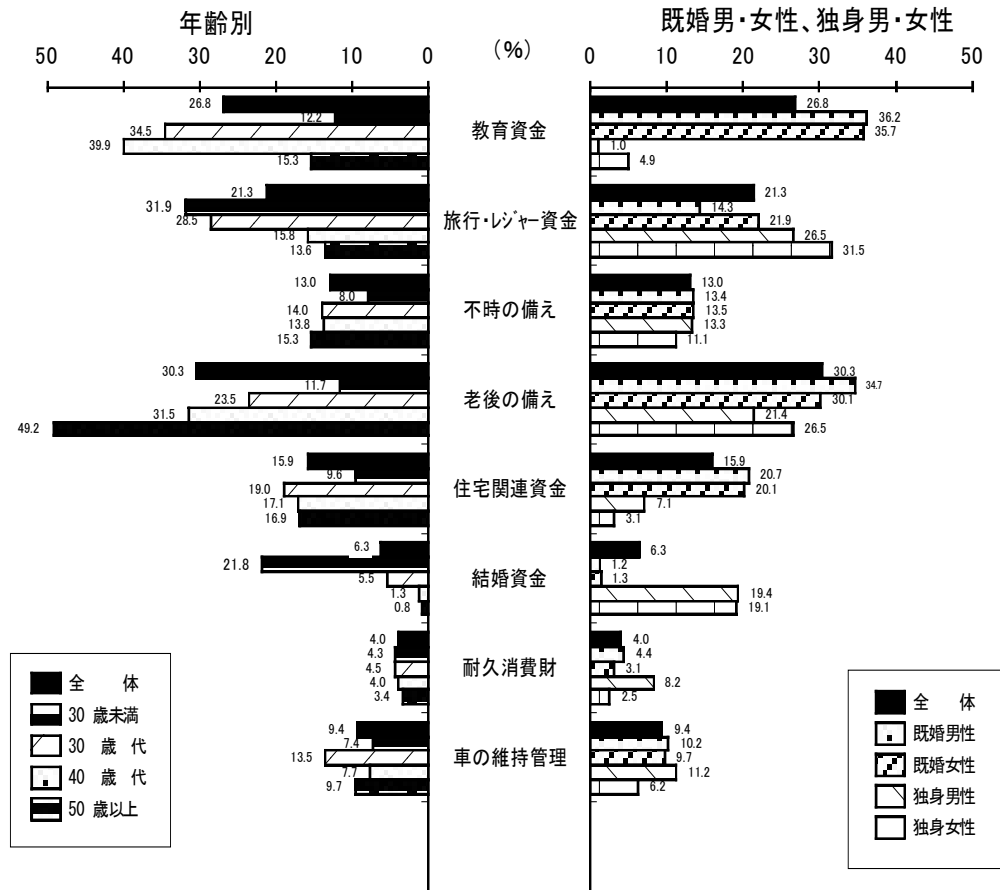
貯蓄の目的（複数回答）は、1位「老後の備え」30.3%、2位「教育資金」26.8%、3位「旅行・レジャー資金」21.3%、4位「住宅関連資金」15.9%、5位「不時の備え」13.0%で、以下「車の維持管理」、「結婚資金」、「耐久消費財」と続いた（図表-9）。

年齢階層別では、30歳未満は「旅行・レジャー資金」（31.9%）、30歳代は「教育資金」（34.5%）、40歳代も「教育資金」（39.9%）、50歳以上は「老後の備え」（49.2%）が高く、各年代のライフスタイルの特徴が表われている。

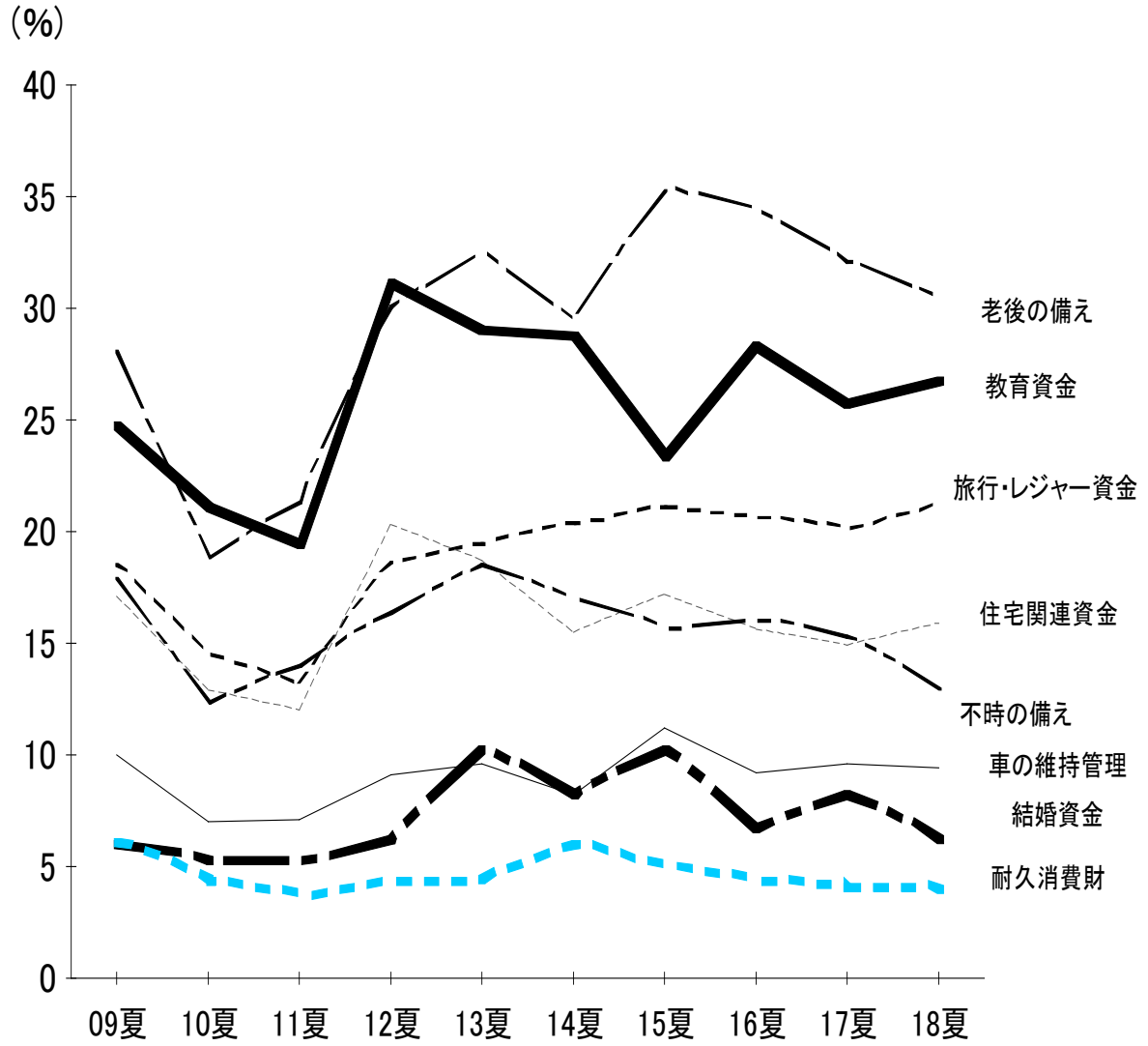
既婚・独身、男性・女性別では、独身男性（26.5%）、独身女性（31.5%）が「旅行・レジャー資金」をそれぞれトップに挙げている。

貯蓄の目的の推移（夏季のみの時系列推移）は、（図表-10）のとおりである。

図表-9 貯蓄の目的（複数回答）



図表-10 貯蓄の目的の推移



6. ボーナスで購入したい主要品目

購入希望品目は、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「家具・インテリア」が上位。

ボーナスで買いたい物（複数回答）の上位は、「婦人服」（26.8%）、「紳士服」（15.7%）、「家具・インテリア」（15.5%）、以下「子供服」、「くつ」となった（図表-11）。

図表-11 購入希望主要品目

| | | | | (複数回答、単位：%) | | | | |
|------|-----------|-----------|-----------|-------------|----------|---------|-----------|------|
| 全 体 | | | | 既 婚 男 性 | | 既 婚 女 性 | | |
| | | | | 16夏 | | 17夏 | | |
| | | | | 今 夏 | | | | |
| 第1位 | 婦人服 | 婦人服 | 婦人服 | 26.8% | 紳士服 | 24.2 | 婦人服 | 30.8 |
| 第2位 | 紳士服 | 紳士服 | 紳士服 | 15.7% | 子供服 | 16.0 | 子供服 | 22.1 |
| 第3位 | 家具・インテリア | 家具・インテリア | 家具・インテリア | 15.5% | 家具・インテリア | 14.3 | 家具・インテリア | 18.3 |
| 第4位 | 鞆・ハット・バッグ | 鞆・ハット・バッグ | 子供服 | 13.6% | 婦人服 | 13.9 | くつ | 9.6 |
| 第5位 | 子供服 | くつ | くつ | 12.7% | 冷蔵庫 | 11.3 | 鞆・ハット・バッグ | 8.7 |
| 第6位 | くつ | 子供服 | 化粧品 | 10.0% | | | | |
| 第7位 | パソコン | パソコン | 鞆・ハット・バッグ | 9.2% | | | | |
| 第8位 | 冷蔵庫 | 乗用車 | パソコン | 8.7% | | | | |
| 第9位 | 化粧品 | 化粧品 | 冷蔵庫 | 7.8% | | | | |
| 第10位 | 冷房器具 | 冷房器具 | 洗濯機 | 6.5% | | | | |

| | | | | 独 身 男 性 | | 独 身 女 性 | |
|--|----------|------|-----------|---------|--|---------|--|
| | 紳士服 | 38.8 | 婦人服 | 58.4 | | | |
| | くつ | 17.9 | 化粧品 | 37.6 | | | |
| | 電話・携帯電話 | 16.4 | くつ | 24.0 | | | |
| | 家具・インテリア | 16.4 | 鞆・ハット・バッグ | 23.2 | | | |
| | パソコン | 14.9 | 家具・インテリア | 13.6 | | | |

7. 暮らし向きの実感と今後の見通しについて

(1) 収入

半年前との比較で収入が「増えた」との回答割合は16.1%。これに対し、今後半年間の見通しで「増えそう」との回答は15.0%と、1.1%ポイント減少した。一方「減った」の11.8%に対し、今後「減りそう」は15.1%と、3.3%ポイント増加した。

収入については、まだ明るい見通しが広がる状況に至っていないようにみられる。

(2) 消費支出

半年前との比較で支出を「増やした」との回答割合は25.4%。これに対し、今後半年間の見通しで「増やす」とした回答は15.3%と、10.1%ポイント減少。一方「減らした」の9.5%に対し、今後「減らす」は24.7%と、15.2%ポイント増加した。

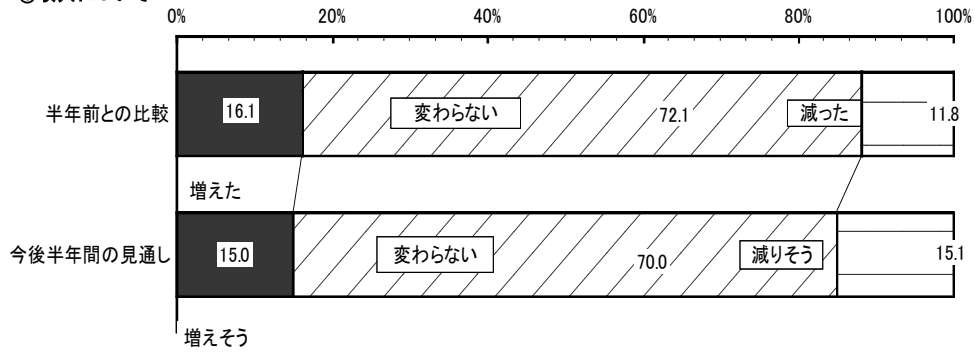
消費支出の先行きには、引き続き慎重な見方がうかがわれる。

(3) 生活全般

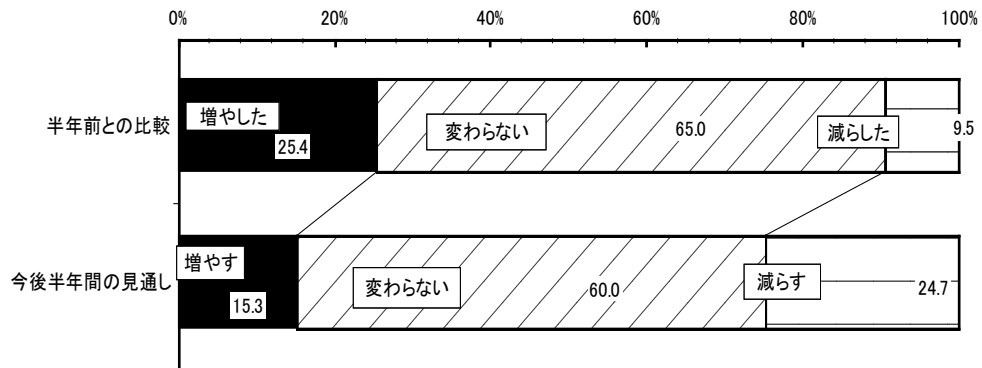
暮らし向きについては、半年前より「良くなった」割合（9.6%）が「悪くなった」（8.4%）を1.2%ポイント上回った。また、今後半年間の見通しでは「悪くなりそう」（14.0%）が「良くなりそう」（10.5%）より3.5%ポイント高く、過去のアンケート結果と同様、今回も慎重な見方に変わりはみられなかった（図表-12）。

図表一12 暮らし向きの実感と今後の見通し

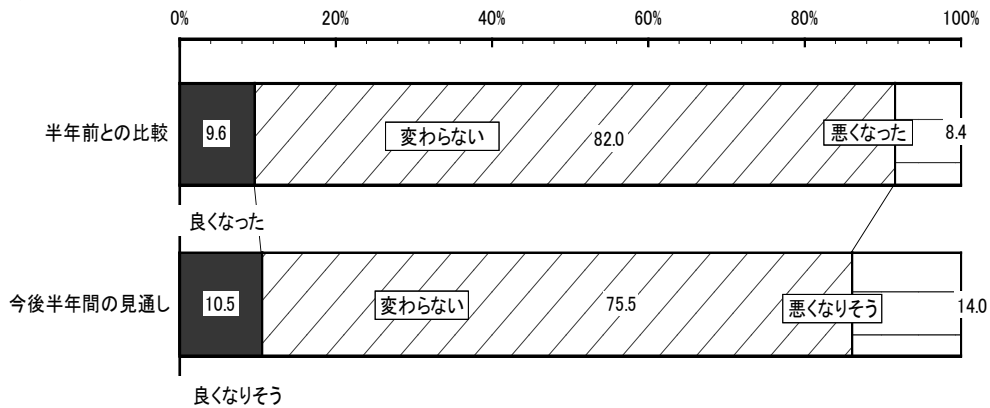
①収入について



②消費支出について



③生活全般について



回答者の構成

(人)

| | 30歳未満 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳以上 | 計 |
|------|-------|------|------|-------|-----|
| 既婚男性 | 13 | 74 | 128 | 128 | 343 |
| 既婚女性 | 33 | 64 | 130 | 92 | 319 |
| 独身男性 | 50 | 32 | 11 | 5 | 98 |
| 独身女性 | 92 | 30 | 29 | 11 | 162 |
| 計 | 188 | 200 | 298 | 236 | 922 |

アンケート調査実施要領

- | | |
|----------|-------------------------|
| ①方 法 | 千葉銀行への来店客を対象として、ロビーにて実施 |
| ②実 施 日 | 2018年4月2日～6日 |
| ③対 象 地 域 | 県内全域 |
| ④対 象 人 員 | 1,000人 |
| ⑤有効回答数 | 922人 |
| | 有効回答率 92.2% |